中間評価について（企画部戦略室案）

○中間評価に対する基本的考え方

本研究計画は、前計画（平成 26 年度から 30 年度）から引き続く長期的視点に立った観測研究計画である。また、令和 3 年度にはレビューを行う予定である。3 年目を迎えるにあたり大学等の研究課題の中間評価を実施する。中間評価は、建議に基づく研究計画全体として 5 か年で最大の成果を達成することを目的として、各課題の進捗状況を把握するとともに、一層推進すべき課題を支援する方策について検討するために実施する。中間評価の実施にあたっては研究計画の継続性や発展性への貢献にも配慮することが望ましい。

○評価方法

研究計画全体の観点から計画の進捗状況の把握と研究課題間の調整を戦略室が主体となって実施する。企画部構成員および計画推進部会長と副部会長が大学等の研究課題について評価を行う。必要に応じて専門性を考慮して評価者を加えることがある。各研究課題について 3 名程度が評価を担当する。（担当については、課題参加者など利益相反に関係する者が評価しないよう留意する。）

○評価となるデータおよび基準

成果報告システムで報告された令和元年度、令和 2 年度成果報告、および中間評価までの令和 3 年度の成果に対して評価を実施する。

新型コロナウイルス感染症対応のため研究計画に支障が出て、中間評価に考慮を必要とする場合は、その旨成果報告システム（年次報告欄）への入力により申告する。

評価は、中間評価に対する基本的考え方に従って、進捗状況、成果、および、発展性の観点から行う。

１．進捗状況

Ｓ：計画よりめざましい進捗が認められる。

Ａ：おおむね計画通りの進捗状況である。

Ｂ：計画よりやや遅れている。

Ｃ：計画より遅れており、指導や計画の見直しが必要。

２．研究成果

Ｓ：重要な成果があがっている

Ａ：計画通りの成果があがっている。

Ｂ：計画通りの成果をあげるにはもう少し努力が必要と判断される。

Ｃ：成果が上がっていない。

３．発展性

Ｓ：今後の発展が大いに期待できる。
Ａ：今後の発展が期待できる。
Ｂ：今後の発展がありうる。
Ｃ：今後の発展が期待できない。
（脚注：「今後」とは、現計画終了時まで、次期計画において、いずれの場合でもよい）
各項目について、「Ａ」評価以外の場合はコメントを付記することが望ましい、特に、「Ｓ」、「Ｃ」評価をつける場合はコメントを必須とする。

○評価結果について
個々の課題の評価結果はコメントも含めて課題担当者および課題が属する計画推進部会の部会長・副部会長にフィードバックする。個々の課題の評価結果は公開せず、課題評価の統計量（分布など）を公開する。
※「Ｓ」評価の課題を公表することも考えられる。
中間評価の結果は令和 3 年度に行われる研究計画のレビューに資する。また、予算の再配分を行う際の参考資料とすることもある。

【中間評価に基づく予算再配分】
「Ｓ」評価の課題について、予算の増額によりさらなる研究の進展が見込まれると判断される場合、課題担当者から予算増額の希望を聴取した上で、戦略室および計画推進部会長がヒアリングを行い、当該課題の予算増額を行うことがある。
「Ｃ」評価が著しい課題については、戦略室および計画推進部会長がヒアリングを行う。研究状況の改善が見込まれない場合は予算の減額を行うことがある。

令和 3 年度に増額する場合は、企画部経費を充て、大学の中期計画が終了する令和 3 年度末までに執行する。令和 4 年度以降の予算については予算委員会の審議を経て決定する。

【計画推進部会および総合研究グループの自己評価】
課題の中間評価と並行して、計画推進部会および総合研究グループの自己評価を行う。自己評価結果は、戦略室が各部会、グループの活動をより深く把握し、必要なサポートを適切に講じるために使用する。

以下の内容について、部会（部会長および副部会長）および総合研究グループ（グループリーダー）に回答（自由記述）を求める。
・部会活動の評価
部会の目的に対する研究の進捗状況

部会の活動状況
部会内でのコミュニケーションは十分か（具体的な活動や今後の計画など）
他部会との連携を十分とっているか（具体的な成果や今後の計画など）
重点的な研究項目の進捗状況（該当部会のみ）
戦略室について（部会活動に対し、戦略室のサポートが必要か、どのようなサポートを期待するか、戦略室の活動に対するコメント）

・総合研究グループ活動の評価
総合研究グループの目的に対する研究の進捗状況
総合研究グループの活動状況
総合研究グループ内でのコミュニケーションは十分か（具体的な活動や今後の計画など）
戦略室について（総合研究グループ活動に対し、戦略室のサポートが必要か、どのようなサポートを期待するか、戦略室の活動に対するコメント）

○実施日程
令和３年４月　　戦略室会議で中間評価の方法を検討、案を作成
　　予算委員会で審議
令和３年４月 28 日　第１回地震・火山噴火予知研究協議会
　　方針の説明、承認（予定）
令和３年６月　　成果入力
令和３年７月　　中間評価実施
　　企画部が結果をとりまとめ
令和３年８月　　課題担当者に評価結果を報告
　　ヒアリングの実施
令和３年９月　　Ｓ評価への予算増額配分
令和３年 11 月頃 第２回地震・火山噴火予知研究協議会
　　中間評価結果の報告
令和４年１月～2 月頃
　　予算再配分案決定

レビュー資料作成および中間評価への協力のお願い

令和３年度は、「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第２次）」のレビュー及び研究課題の中間評価（大学等のみ）が予定されているため、令和３年度の成果で報告すべきものがある場合は、毎年年次報告【機関別】とほぼ同様の形式で、Web 入力システムで入力する。

○　作成の手順

「機関別」報告

- WEB 入力システムを利用して資料を作成する。研究担当者が実質的に入力するのは当該年度の「年次報告（機関別）」の各項目部分。
- WEB 入力システムは令和３年度成果入力準備のため改修中である。利用可能になった時点で、課題担当者に通知する（5 月頃の予定）。入力締め切りは 6 月頃を予定。締め切り等詳細は、入力依頼と同時に課題担当者に通知する。
- 年度末の令和３度成果報告は、年度当初に行う成果報告に追加する形で実施する予定。（ただし、システムのサーバ移行の予定があるため、入力方法が変更になる可能性がある。）
- 令和３年度成果として報告すべき内容がない場合は入力不要。入力された成果は、「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第２次）」のレビュー及び研究課題の中間評価（大学等のみ）で利用する予定。